



Masa Takahashi 高橋 正康

Intake 2012, Full-Time

CFO of MBA Association (生徒会) / President of Japan Club

MBA入学前: M&Aアドバイザー

プロフィール紹介

学部卒業後、日系半導体メーカーに3年勤務後、M&Aおよび財務アドバイザーを5年経験しました。2010年US-CPA試験合格。2012年8月よりM&Aアドバイザー会社を退職し、HKUST MBAプログラムに参加しています。

Why MBA?

学部時代より漠然と自分は将来MBAへ行くのだろうと夢見ていました。昨年状況が一気に変わり、夢が現実へと変わりました。現在の勤務先に入社後、クロスボーダーM&Aが増える中、世界で戦えるプロフェッショナルに対する需要が増えていること、日本国外でのMBA取得の必要性を経営陣に訴え続けた結果、MBA取得をサポートする制度を新規に立ち上げることとなり、1期生として選ばれました。

具体的には、①知識の強化、②ソフトスキルの強化、③ネットワーキングを目的に考えています。様々な案件においてクライアントと話す中でマーケット・サイドのファイナンスの知識、企業戦略論、マーケティングなど多方面の知識強化の必要性を感じていましたので、一気に効率的に勉強できるMBAは魅力でした。また、英語での交渉力、リーダーシップを強化したいという思いも強くありましたので、世界各国から生徒が集まり、グループワークを中心とするMBAに強く惹かれていました

Why HKUST?

アジアを中心に仕事をしていきたいと考えており、アジアでのネットワークを広く強化したいと考えていました。香港はアジア金融の中心地であり、様々な金融機関・ファンドの関係者に会うことが出来ます。また、HKUSTは卒業生の8割以上がアジアに残ることを選択します。卒業後の業種も金融が多数を占めますが、金融以外にも広く分散しています。このような土地柄・学校の特徴、そしてアジアのトップスクールであるという点、ファイナンス学校としての定評などを総合的に考慮し、HKUSTを選びました。

MBAで得たものが、どのように活かしているか？

MBAで得たものは多々ありますが、中でも広い視野とネットワークはすでにメリットを感じています。例えばMBA前は日本から見たアジアという視点しか持っていませんでしたが、卒業後の今は、香港から見た日本、中国から見た東南アジア、インドから見た中国など、多極的な視点の存在への理解が深まりました。仕事を進める上で、自分の視点が偏ったものになっていないか、経営者だったらどのように考えるか、他にパラダイムはないか、など常に考えるようになり、仕事の奥行きが深まったと感じています。また、在学中の東南アジアのPEファンドでの就業経験やアジア各国で築いたネットワークは、幸いにも今のビジネスに直結する先も出てきています。

アPLICANTのみなさまへメッセージ

MBAは非常に大きな投資である一方、視野を広げ、様々なことにチャレンジする貴重な機会です。もしチャンスがあるのならば絶対にチャレンジすることをお勧めします。受験準備・学校生活全般等不明な点がありましたらいつでもご相談ください。

